



慶應義塾高等学校



慶應義塾高等学校

Keio Senior High School | SCHOOL GUIDE

未来の先導者がここで育つ

For the Leaders of the Future

慶應義塾の理念

PHILOSOPHY



学自之獨

独立自尊

慶應義塾は単に一所の学塾として自ら甘んずるを得ず、その目的は、わが日本国中における気品の泉源、智徳の模範たらんことを期し、これを実際にしては居家、処世、立国の本旨を明らかにして、これを口にするのみにあらず、躬行実践、もって全社会の先導者たらんことを欲するものなり。

福澤 諭吉

※居家 = 家庭をおさめてゆくこと。

※処世 = 世間で暮らしを立ててゆくこと。

※立国 = 国の独立をたもつこと。

※本旨 = 本来の趣旨。

※躬行 = 口で言う通りを、みずから実際に行うこと。

Contents

02	慶應義塾の理念	11	国際交流
03	校長挨拶／沿革と教育目標	12	塾高での一日／制服紹介
05	〔特集〕グローバルリーダーを育むために	13	年間行事
07	〔特集〕卒業生インタビュー	15	クラブ活動
09	カリキュラム／在校生対談	17	施設紹介



慶應義塾の理念

校長挨撈

MESSAGE

未来の自分の ために

—正統·異端·協育—

慶應義塾高等学校(塾高)はいま、「日吉協育モデル／正統と異端の協育」と名付けた独自の教育を展開しています。「正統」は高校生として当然に身に付けるべき知性・体力・モラル、「異端」はそこから磨き高められる傑出した個性や能力を意味します。大地に立つ一本の大きな樹をイメージしてください。「正統」はその太い幹と地中深く広がる根、「異端」はそこに咲く花であり、果実です。最初は小さな若木でも、やがてはどんな風雨にも

負けない大樹になるでしょう。

私たちは、ここで学ぶ生徒の柔らかな知性や感性にたくさんの種を蒔きたいと考えています。そのために多種多様な「協育プログラム」を用意しています。「協育」、それは大学や同窓会、企業など、多くの人たちと協力しながら未来のリーダーを育てる試みです。大学のキャンパスにある強みを最大限に活かしています。

ここに一枚の写真があります。万延元(1860)年、福澤諭吉は幕府の遣米使節の一員としてサンフランシスコに行きました。咸臨丸という小さな蒸気船で太平洋を渡る冒険でした。ふらりと立ち寄った写真屋で、店の娘さんと撮ったものです。時は幕末、日本は開国と攘夷の間で揺れています。彼の腰には刀がありません。武士の魂である刀をはずし、異国の女性と写真を撮る、それは驚く

べき行為だったはずだ。このとき彼は25歳、まだ何者でもありません。しかしここには、のちに「福澤諭吉」になる芽吹きがはっきりと見て取れます。彼は日本の近代化をリードする思想家・教育者になっていくのです。

福澤がアメリカの旅で学んだのは、近代社会を成り立たせる仕組みや考え方でした。それは見たこともない世界でした。写真の中の二人は対等な関係で並んでいます。独立した個人によって形成される近代市民社会の本質がここにあります。刀をはずすのは勇気がいることです。しかしそのことによって初めて、心に自由が生まれます。腕を組んでじっと見つめるまなざしの先には、どんな未来の風景が映っていたのでしょうか。

塾高は大きな学校です。自由でおおらかな気風の中で、
自分自身の可能性にじっくりと向き合うことができます。



刺激に満ちた学びを通して、次々に会える新しい世界に好奇心を広げ、未来の自分を夢見てください。福澤諭吉がそうであったように、若木はやがて大樹になり、大輪の花を咲かせます。大事なことは、どんな風雨にも耐える独立した一本の強い木に育つこと、古い慣習にとらわれない自由な心を持つこと、それが私たちの教育の目的であり、理想です。

校長 阿久澤 武史

沿革と教育目標

HISTORY AND MISSION

1858



慶應義塾発祥の地記念碑

1904



大学部校舍

1934



当時の日吉キャンパス

1949



日吉キャンパス第一校舎



日吉校舍返還式

2008



慶應義塾創立150年

2018年	高等学校開設70年。日吉協育棟完成。
2010年4月	多目的コート供用開始。
2009年11月	壠谷体育館竣工。
2009年4月	南側グラウンド全面人工芝化。
2008年	慶應義塾高等学校創立60年記念式典を開催。 慶應義塾創立150年記念式典を開催。
2005年4月	3年生による卒業研究論文の提出が必修化された。
2003年1月	制度化され実施された。 新たに推薦入学試験（募集人員約40名）が
1999年5月	1年生の修学旅行が親睦旅行へと改められた。
1999年2月	選択旅行形式に改められた。 従来各学年で行われていた修学旅行をやめ、
1984年3月	新棟（現B棟）・地下体育館完成。
1970年5月	特別教養棟（現A棟）が完成。
1963年	日吉会堂が完成。名称は教職員・生徒からの公募で決定。
1958年	日吉祭実行委員会主催で初の関東高校学生招待会議を開催。 完成した日吉記念館で慶應義塾創立100年記念式典開催。
1952年9月	3年生は北海道、2年生は裏磐梯、1年生は草津の各方面へ 全校で学校行事としての修学旅行に出発。
1952年5月	日吉の陸上競技場で第1回陸上運動会を開催。
1951年4月	生徒会が第1回学園評議会を開催。
1951年3月	自治会がすべての任務を終了し、新たに生徒会として発足。
1950年11月	自治会・文連・体連の共催で第1回日吉祭を開催。
1949年	アメリカ軍より返還された日吉へ移転。授業を開始。 アメリカ軍より日吉返還される。 同時に三田山上を本校舎、三ノ橋校舎を分教場とした。 「慶應義塾高等学校」となる。 「第一高等学校・第二高等学校」の名称を廃止し、 三ノ橋校舎にて授業を開始。 「慶應義塾第一高等学校・第二高等学校」が発足。 新制高等学校として 前年に公布された学校教育法に基づき、 「慶應義塾第一高等学校・第二高等学校」が発足。 アメリカ軍により日吉構内の施設が接収される。
1948年	第1校舎にて授業を開始。
1934年5月	大学予科（医学部を除く新1年生）が日吉に移転し、 （後に普通部と改称、5年）・幼稚舎（6年）の体制へ。 大学科（後に大学部と改称、5年）・普通学科 一貫教育制度への学制改革。
1868年	慶應義塾と命名。
1858年	福澤諭吉、蘭字塾を創始。

〔特集〕

グローバルリーダーを 育むために

日吉協育モデル ―正統と異端の協育―

2018年の開設70年を機に、「日吉協育モデル―正統と異端の協育―」と名付けた新しい教育を実践しています。その目的は、生徒が将来のグローバルリーダーにふさわしい人間に成長することです。「日吉協育モデル」にもとづき、多種多様なプログラムを設置しています。一貫教育の強みを生かして慶應義塾大学の学部・大学院・研究センターや、慶應義塾以外の法人・団体、そして卒業生などの協力のもと、生徒が自らの関心や知的好奇心を広げ、深める機会を提供するものです。選択科目や卒業研究、さらには放課後や長期休業期間に課外講座という形で用意される多くのプログラムの中から、生徒自身が自主的に選び、それに参加することで「協育」の実践をはかります。

また、グローバルに活躍できるリーダーを育成するためには、他国の同世代の人たちとの交流が欠かせません。国際交流の拡大や多文化理解の深化、国際感覚の涵養と修得をめざすものとして、海外の提携校との短期交換留学や中期派遣留学プログラム、さらには海外からの留学生との交流をはかるプログラムも実施しています。

主なプログラム（2025年度実施）

同窓会との連携による講座

将来展望講座

2011年から毎年12月に開催されている卒業生による講演会です。2025年度は、森本典繁氏（日本アイ・ピー・エム株式会社取締役副社長執行役員）による「未来を創り、未来を生きる力」でした。毎回多くの生徒から真剣な質問が飛び出し、講演者からもまた熱いメッセージが送られる講座です。



法科大学院との連携による講座

法律学

社会科設置の3年選択科目です。2023年度は18・19歳も対象となった裁判員制度について理解するため、弁護士と裁判員経験者による授業を行い、現場での経験を語ってもらい、その現状と課題を議論しました。また、毎年法科大学院の専門家をお呼びして、法曹界の仕事について解説していただいたり、裁判傍聴も行われるなど、将来の進路を考える上でも役に立つ内容となっています。

同窓会との連携によるプログラム

インターンシップ プログラム

2023年度から始まった企画です。夏休みに卒業生が経営に関わっている法人（2025年度は会社8、NPO団体1）に3～5日程度インターンとして受け入れていただき、高校生の段階で一足早く仕事の現場を体験できます。参加者は日吉祭でのプレゼンテーションも行いました。



高等学校主催

学校講演会「社会との共生」

毎年9月に全学年を対象として開催されます。2025年度は「地域のおばさんが挑むソーシャルイノベーション」と題して、大村みさ子氏（一般社団法人子ども村ホッとステーション代表理事）に講演していただきました。地域社会で子ども支援の活動を組織化していく過程や非営利の活動に取り組む熱意の源にあるもの、そして、自分自身の軸をもって生きることの大切さを熱く語っていただきました。



生徒によるプログラム

「塾高にもっとアートを！」

生徒が自ら企画して昼休みや放課後に行われるプログラムです。2025年度は、日本舞踊、ピアノとバイオリンのコンサートが行われました。本校には、クラブ活動とは別に芸術活動を高いレベルで行っている生徒がいます。ふだんは目にすることがない塾高生の「アート」に触れる良い機会になっています。



大正製薬との連携による講座

マーケティングの実践

3年選択必修科目「卒業研究」の一講座として実施されています。大正製薬のロングセラー商品「リボビタミンD」のボトルデザインを生徒が考案します。採用されたデザインは日吉祭や連合三田会で来場者に無料提供され、同時にアンケート調査を実施し、その結果をまとめ、マーケティングの卒業論文として完成させます。



求めよ、さらば開かれん

吉村 太郎 さん（2017年3月卒業／2021年 経済学部卒業）
東京大学総合博物館研究員、英国ケンブリッジ大学博士課程在学、博士（理学）

私が没頭してきた博物学は、自然の中に躍動する命の姿を人が描いていく学問です。それは、単なる自然科学の一分野ではなく、人の感性を解き放つ場としてのあらゆる学問、芸術、文学、身体表現への広がりをもっています。こうした未知の自然と人とのつながりを高校生が主体的に追究するには、学校の内外にある何かを自ら工夫して体得する姿勢が求められるでしょう。

福井県出身の私は、幼少期から熱中してきた空手を高校でも競技者として続けたいと考え、推薦入試を受験しました。入学後は空手部で週6日の稽古に励み、休みの日は茶道部や文芸部で穏やかに友人たちと過ごしました。最後の年には、生徒会副会長として学校の課題にも向き合う日々をおくりました。そして、今日まで一貫して注力し、塾高の友人、先輩、先生方の力を最も借りてきたのは、昔から好きだった貝類の研究でした。3年間、地学の先生に協力を仰ぎ、ときには数学の先生に統計解析を、日吉キャンパスの大学の先生にロシア語の文献の解説を、そして理工学部の研究室あるいは学外の専門家にも装置を使った実験を依頼し、研究を進めることができました。

のどかな学風が息づく第一校舎は、尊敬する同窓生との出会いも提供してくれました。塾高には、こちらが求めて門をたたけば、必ず応えてくれる人たちがいます。彼らのおかげで、田舎からひとり上京した15歳の私は決して孤独ではありませんでした。この学校は、志を高く持ち、分野を超えて挑戦する若者を懐深く支えてくれることを、卒業生の一人として保証します。



高校時代の吉村さん。新種の貝化石発見の論文を手に。

新しい挑戦を支えてくれる仲間と塾高の教え

小林 正忠 さん（1990年3月卒業／1994年 総合政策学部卒業）
楽天グループ株式会社 チーフウェルビーイングオフィサー

自分らしく生きることが大切な今、与えられることにただ向き合うのではなく、自ら考えて歩む経験が重要です。塾高にはその「時間」があり、対話をする「仲間」がいます。さらには、慶應義塾の歴史と文化を紡いできた「教え」と層の厚い我々「OB」たちがいます。

1997年に楽天を起業した際、営業活動も困難で誰からも振り向いてもらえない中、慶應の先輩たちが様々な場面で助け舟を出してくれました。当時は「インターネットでモノを買う時代」を信じてくれる人も少なく、手を差し伸べてくれる同期や先輩たちの存在は心強かったです。

このような新しいことに挑戦していく気風もまた、塾高をはじめとした慶應で培われているものです。無謀と思われる挑戦、誰も知らない、誰も成功していない、みんなが無理だと思っている、そんな挑戦を乗り越えられた原点が、「自我作古」（われよりいにしえをなす）という、自分が信じれば歴史は自らが作れるという慶應に根付いた考え方でした。

大学生のように長い夏休みや春休みがある特殊な環境である塾高では、大人達によって敷かれたレールの上をただ歩くのでは

なく、自分自身がやりたいことを実現できる時間やサポートがあります。通常の授業以外にも我々OBが先生方と開発した協育プログラムには、夏季休暇中のOB企業でのインターンシッププログラムやオンラインコーチングプログラムもあります。一度しかない人生。自分らしく生きるためにも、15歳の春の大切なその一歩をぜひとも塾高で踏み出してみてください。どこかで出逢えることを期待しています。



楽天創業時の小林さん（写真右から2人目）。

カリキュラム

CURRICULUM

文系・理系などのコース設定はありません。3年次には自らの興味・関心や志望進路に合わせて選択科目を履修し、探求を深めることができます。

1 年		2 年		3 年	
科目	単位	科目	単位	科目	単位
現代の国語	2	古典探究	4	論理国語	4
言語文化	2	歴史総合	3	数学B	2
地理総合	3	数学Ⅱ	4	地学基礎	2
公共	3	物理基礎	3	体育	2
数学Ⅰ	3	化学基礎	3	英語コミュニケーションⅢ	4
数学A	2	体育	3	選択科目	10~14
生物基礎	3	音楽Ⅱ / 美術Ⅱ	2	卒業研究	2
体育	2	英語コミュニケーションⅡ	4	将来開発※ ²	1
保健	2	第2外国語※ ¹	2	HR	1
音楽Ⅰ / 美術Ⅰ	2	家庭基礎	2		
英語コミュニケーションⅠ	4	HR	1		
情報Ⅰ	2				
HR	1				
合計	31	合計	31	合計	28~32

※1 ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ、中国語Ⅰのいずれか1科目。

※2 入学から卒業までに30ポイント以上の取得が必要。

授業時間

TIME TABLE

授業は6時限までですが、木曜日のみ7時限にHRがあります。なお、朝や帰りのHRはありません。

1時限	8:20 ~ 9:10
2時限	9:20 ~ 10:10
3時限	10:30 ~ 11:20
4時限	11:30 ~ 12:20
昼休み	
5時限	13:00 ~ 13:50
6時限	14:00 ~ 14:50
7時限	15:00 ~ 15:50



授業紹介

CLASSES

高大一貫講座	
	大学での講義を先取りすることで学部選択に役立ちます 前期は慶應義塾大学経済学部の教員から経済学を学び、後期は大学校舎で大学生とともに商学部の講義を受けます。一貫教育の強みを生かし、高校時代から一足早く大学教員の講義を学ぶことができます。各学部の雰囲気も感じられ、学部選択の良い材料になります。商学部進学時には講義の取得単位として認定されます。
第2外国語	
	異文化理解とコミュニケーション能力を養います IT化やグローバル化によって世界の人々と簡単につながり、国境を越えた活躍が可能な時代に、英語以外の言語を学ぶことは将来「社会の先導者」となることを目指す生徒にとって必須となります。ドイツ語、フランス語、中国語のいずれか1つを学ぶことで、英語圏以外の多様な文化や価値観を学ぶことができます。
卒業研究	
	アカデミックライティングの基礎を学び、学習から学問の世界へ 教員が提示する約50講座の中から、知的関心や進路に合わせて講座を選ぶことができます。講座によっては専門家を招聘したり、フィールドワークを実施するものもあります。研究を進め、発表を行い、最終的には論文形式を身に付けた上で、卒業論文を執筆し完成させます。特に優れた論文には優秀論文賞を授与しています。

塾高生が考える、「探究学習と未来への挑戦」

自らの気づきを「実学」へと昇華する僕たちの挑戦

自らテーマを模索することから探究が始まる

横川：僕のテーマは「楽器の演奏とその音について」。吹奏楽部で演奏をしているホルンの音の研究に取り組んでいます。普通部の「労作展」で、真鍮のパイプを組み合わせてホルンの音を再現する楽器づくりに取り組んだことから、波長など音を構成する要素に興味をもつようになりました。

山口：僕は「幸福」に興味をもって研究しています。きっかけは友達から「楽しむための部活や趣味で時折苦しい思いをする」という話を聞いたこと。好きなことをしているはずなのになぜだろうという疑問がスタートです。

金山：僕は才能豊かなタイプではないため、目標に向けて精一杯努力をしてきましたが、周囲を見ると必死に努力する人ばかりではないように感じたことから、興味をもったテーマは「努力」です。

試行錯誤するから成長できる

横川：探究ではどんなことに苦労していますか？僕はホルンの音の録音が大変でした。自分で演奏して自分で録音するため、雑音が入らないように録音環境に工夫をしました。

山口：幸福度の数値化に苦戦しています。幸福度は様々な要素から成り立っているため、アンケート調査では質問の設定などを工夫して誤差をできるだけ小さくしました。データ化する手法についてはまだ試行錯誤中です。

金山：「考える」ことを学ぶために、大学で哲学の授業を受

けたところ、難解で最初は先生が何を話しているのかわかりませんでした。でも、毎回必死で復習することで理解が深まり、わからないことに取り組む姿勢も学ぶことができました。また「日吉学」では留学生の方と共に学ぶことで、ものの見方の幅が広がりました。

常に社会を意識しながら学ぶ姿勢をもつ

横川：僕は探究をきっかけに理学分野への興味が深まったため、大学でも音響などについて研究がしたいと考えています。まだ社会にどのように役立てられるかはわからないのですが、自分がおもしろいと思ったことを突き詰める中で探していきたい。もちろん、研究で得た知見を大好きな楽器演奏にも活かしていくつもりです。

金山：僕は探究テーマと直結はしてないのですが、将来、外国から来た人が日本で働くためのパイプとなる会社を起業したいと考えています。今の社会は排他主義的な考え方をしている人が増えていますが、哲学で学んだ多面的なものの見方や考え方、留学生の方との交流で得た多様な視点などを、多くの人と共有していきたいです。

山口：探究を通して客観的幸福度と主観的幸福度という考え方を知ったので、本人の感性を主体にした新たな「幸福度」の測定手法を確立したいです。そして、それをもとにして多くの人が幸福に生きられるような取り組みに挑戦したいと考えています。

国際交流

INTERNATIONAL EXCHANGE

長期から短期まで英米伝統校への留学制度

本校には、「一貫教育校派遣留学制度」、「中・長期派遣留学プログラム」、「短期交換留学プログラム」の3種類の留学制度があります。一貫教育校派遣留学は、慶應全体の制度で、一貫教育校（高校段階）から選抜された生徒を英国や米国の有名ボーディングスクール（寄宿制学校）に約1年間派遣しています。高等学校への学費を納付していただく代わりに留学先の学費（授業料・寮費を含む）が給付されます。また、本校独自の制度として中・長期派遣留学が

あります。本制度では2・3年次に、中期は最長6か月、長期は10か月留学することができます。派遣留学は原則としてそのまま進級することができます。短期留学は、米国にある提携校と約2週間の交換留学を長期休業中に実施しており、ホームステイを通して、言語だけでなく現地の文化も学ぶことができます。なお、中・長期派遣留学と短期交換留学は協育基金による「グローバルリーダー奨学金」の支給対象となります。

短期交換留学プログラム

現在、ザ・ボールズ・スクール（The Bolles School、米国）と交換留学を行っています。春休み中に10日～3週間程度、現地校で過ごし、春から秋にかけて、先方から日本に留学生を迎えています。同校は1933年に男子校として設立された名門校で、現在は共学校です。



中・長期派遣留学プログラム



英国ウェールズにあるクライスト・カレッジ・ブレコン（Christ College Brecon）に派遣する本校独自のプログラムです。同校は1541年にヘンリー8世によって設立された歴史あるパブリックスクールです。中期は最長6か月、長期は10か月の期間の留学となります。

一貫教育校派遣留学制度

最近では、Shrewsbury School（英）、Winchester College（英）に派遣しています。Shrewsbury Schoolは、1552年に設立された名門校で、2025年度に1名派遣されました。Winchester Collegeは、1382年に設立されたパブリックスクール最古の歴史をもつ伝統校で、2023・2024年度に各1名派遣されています（写真は同校）。



塾高での一日

A DAY AT KEIO SENIOR HIGH SCHOOL

広大な日吉キャンパスの中にある恵まれた環境のため、大勢の生徒がいますが狭く感じることはほとんどありません。友人とワイワイにぎやかに過ごすことも、ゆったりと静かに過ごすこともできます。

AM

8:00-
登校

日吉駅からイチョウ並木を
上って徒歩5分。



8:20-12:20
1-4 時限

2時限と3時限の間に
20分休みがあります。



12:20-13:00
昼休み

昼食は弁当派と
食堂派に分かれます。



PM

13:00-14:50 (15:50)
5-6(7) 時限

木曜日のみ
7時限にHRがあります。



14:50-18:00 (17:00)
放課後

4-10月は18:00まで、
11-3月は17:00まで活動できます。



18:00 (17:00)
帰宅

クラブに入っている生徒は
様々な活動場所から帰ります。



制服紹介

SCHOOL UNIFORM

制服は黒の詰襟で、ボタンは指定されています。夏季略装の期間は、上着なしでワイシャツ、セーター（ともにペンマークの縫い付けが必要）も可としています。靴は黒の革靴、帽子は制帽のみ認めています。



summer

winter



年間行事

ACADEMIC CALENDAR

主体的に取り組み、生徒同士が切磋琢磨

本校では3学期制を取り入れています。学校内外で行われる学校行事は、授業や部活動とは異なる体験ができる貴重な機会です。生徒が主体的に取り組み、生徒同士が切磋琢磨することで能力の可能性を広げます。大規模校の本校ならではの行事としては、国内外の多様な特徴を持つコースが用意された選択旅行、陸上競技場をすべて使った陸上運動会、多くの来場者を迎える日吉祭などがあります。

入学式 | 4月

春の息吹あふれる日吉キャンパスで、3年間の塾高生活が始まります。



TOPICS

選択旅行 | 夏期・春期

国内外の豊富な選択肢を用意した
選べる「修学旅行」

夏休み・春休みに実施され、卒業までにいずれかのコースに1回以上参加することになります。気の合う仲間と校外で過ごし様々な活動を通して多くの学びがあることでしょう。

【実施コース例】

台湾、ベトナム、屋久島、四国、沖縄本島、東北・三陸、北海道（道東）、スキー／スノーボード（赤倉）、雪の北陸・飛騨、奈良・京都、Welcome to British Hills（福島）、八重山諸島、山陰・山陽、米国（Los Angeles）、スポーツキャンプ（千葉）、てつたび（鬼怒川）、横須賀・成田空港



4 April 5 May 6 June 7 July 8 August 9 September 10 October 11 November 12 December 1 January 2 February 3 March



- 4 April: ・入学式
・新入生歓迎行事
- 5 May: ・1学期中間試験
・早慶戦(東京六大学野球)
・BLS教育
・校内球技大会
- 6 June: ・第1回保護者会
- 7 July: ・1学期期末試験
・選択旅行(夏期)
- 8 August: ・選択旅行(夏期)
・大学模擬講義・模擬ゼミ
- 9 September: ・学校講演会
- 10 October: ・陸上運動会
・学部説明会
・早慶戦(東京六大学野球)
・日吉祭
- 11 November: ・2学期期末試験
- 12 December: ・理工学部見学会
・第2回保護者会
- 1 January: ・福澤先生誕生記念日
・3年生 3学期期末試験
・入学試験(推薦)
- 2 February: ・福澤先生ご命日
・入学試験(一般・帰国生)
・1、2年生 3学期期末試験
- 3 March: ・選択旅行(春期)
・卒業式
・新入生ガイダンス



校内球技大会 | 5月

サッカー、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、卓球の5種目で学年ごとにクラス対抗戦を熱く繰り広げます。生徒会を中心に大会運営を生徒が担うのも特色です。クラスの親睦が一気に深まる行事です。

陸上運動会 | 10月

日吉キャンパスが誇る陸上競技場で開催されます。各学年のクラス対抗で様々な種目で競い合い、大いに盛り上がります。そのほか、クラブ対抗リレーは体連・文連別に行われ、多くのクラブがそれぞれの競技の装いで走る名物競技です。



日吉祭 | 10月

生徒主体で企画・運営する文化祭です。2日間にわたり文化系クラブの活動発表や有志団体の企画を中心に開催します。一般にも公開され、受験生を含む多くの来場者を迎えます。

卒業式 | 3月

3年間の様々な経験を糧に、新たな一歩を踏み出します。





クラブ活動

CLUB ACTIVITIES

体育系、文化系合わせて75のクラブが活動中

本校のクラブは、体育団体連盟（体連）・文化団体連盟（文連）併せて75団体あります。体連では野球部、バレーボール部など全国レベルの実力を有するクラブが数多く活躍しています。また、高校としては珍しい、航空部、自動車部、馬術部などもあります。文連では、音楽系クラブの定期演奏会はレベルが高いことで定評があり、また、近年ではディベート部、棋道部が大会で良い成績を収めています。秋の日吉祭では一般向けに演奏会や展示を行います。体連・文連各クラブは、大学の各クラブと施設や指導面で連携しながら充実した活動を行っています。

体育団体連盟（体連）

アメリカンフットボール部
バドミントン部
馬術部
バレーボール部
バスケットボール部
ボクシング部
フェンシング部
ゴルフ部
ハンドボール部
ホッケー部
自動車部
柔道部
重量挙げ部
空手部
剣道部
器械体操部（器械体操）
器械体操部（トランポリン）

航空部
競走部（陸上競技）
弓術部（和弓）
ソフトテニス部
軟式野球部
応援指導部
レスリング部
サイクリング部
山岳部
サッカー部（サッカー）
水泳部（水球）
水泳部（競泳）
水泳部（兼山）
水泳部（飛込）
スケート部（ホッケー）
スキー部
相撲部

蹴球部（ラグビー）
卓球部
端艇部（ボート）
庭球部
野球部
ヨット部
合気道部
射撃部
洋弓部（アーチェリー）
拳法部
ラクロス部
少林寺拳法部
バレーボール部B
バスケットボール部B

文化団体連盟（文連）

美術部
文芸部
地学研究会
電子工学研究会
E.S.S.（英語会）
演劇部
フォトフレンズ
福澤研究会
楽友会
ギターアンサンブル
放送研究会
棋道部
化学研究会
奇術部
マンドリンクラブ
音楽鑑賞会

生物学研究会
書道部
数学研究会
鉄道研究会
ワグネル・ソサィエティー・オーケストラ
漫画研究会
情報科学研究会
吹奏楽部
クイズ研究会
茶道部
ディベート部

施設紹介

FACILITIES

高等学校の施設は、すべて慶應義塾大学日吉キャンパス内にあります。第一校舎は1934年に竣工した歴史的建造物で、各学年18クラスのHR教室が各階に配置されています。日吉協育棟は2018年に完成した新しい建物で、ホール、図書室、トレーニングルームなどが配置されています。また、南側グラウンドや体育館など体育施設も充実した環境で、生徒たちは日々の活動に励んでいます。



1 第一校舎

各階に各学年A～R組18クラスのHR教室が配置され、教室にはプロジェクターとスクリーンが完備されています。各階3カ所にウォーターサーバーが設置され、冷水をボトルに補給できます。他にLL教室や事務室、教員室などがあります。



2 イチヨウ並木

東京近郊で指折りの名所です。300メートル続く見事な並木道は、新緑から黄葉までキャンパスに潤いを与えてくれます。生徒は登下校で毎日この並木道を往来します。



3 日吉会堂

幾何学的なデザインが特徴的なモダニズム建築の講堂兼体育館です（1963年竣工）。入学式・卒業式や保護者会、体育、バレーボール部、バスケットボール部、ハンドボール部、バドミントン部の活動などで使います。

4 特別教室A棟

理科室（生物、化学、物理、地学）、音楽室、家庭科室、コンピュータ教室などがあります。

5 特別教室B棟

地下体育館、美術室（鍛金、木彫、絵画、陶芸）、会議室、コンピュータ教室などがあります。

6 食堂棟

グリーンハウス食堂、自動販売機があります。



7 アメリカンフットボール場

アメリカンフットボール部が活動しています。



8 瘦谷体育館

体育の授業で使うほか、ハンドボール部、器械体操部などが活動しています。



9 瘦谷多目的コート

校内球技大会や体育の授業で使うほか、バレーボール部Bなどが活動しています。



10 南側グラウンド

人工芝のグラウンドで、体育のほか、軟式野球部、ハンドボール部、蹴球部が活動しています。



11 日吉台野球場

野球部が活動しています。



12 柔道場

2年生の柔道の授業で使うほか、柔道部、合気道部が活動しています。



13 陸上競技場

学校行事の校内球技大会や陸上運動会で使うほか、競走部が活動しています。



14 プラネタリウム

特別教室A棟3階にあり、学校説明会や日吉祭で見学が可能です。



15 日吉協育ホール

学校講演会や協育プログラム、音楽系クラブの演奏会などで使います。



15 日吉協育棟

交流館と創造館の2つの建物で構成されています。特に交流館は、創造館と第一校舎およびA棟・B棟をつなぐハブの役割を果たしています。



15 図書室

書籍約13万冊、雑誌約100誌、新聞11紙を所蔵しています。パソコンが置かれたスペースからは瘦谷が一望できます。



15 トレーニングルーム

平日のみならず土日祝日もトレーナーが常駐し、メニューの相談やトレーニングの指導にあたっています。

慶應義塾大学 日吉キャンパス



16 日吉メディアセンター

41万冊を誇る豊富な蔵書で利用者の探求心を満たします。演奏会などイベントも開かれます。高校生は高校図書室にない資料をメディアセンターで探すことができます。



17 来往舎

大学・大学院を横断する研究棟で、研究発表やイベントが行われることもある、外部との交流拠点です。



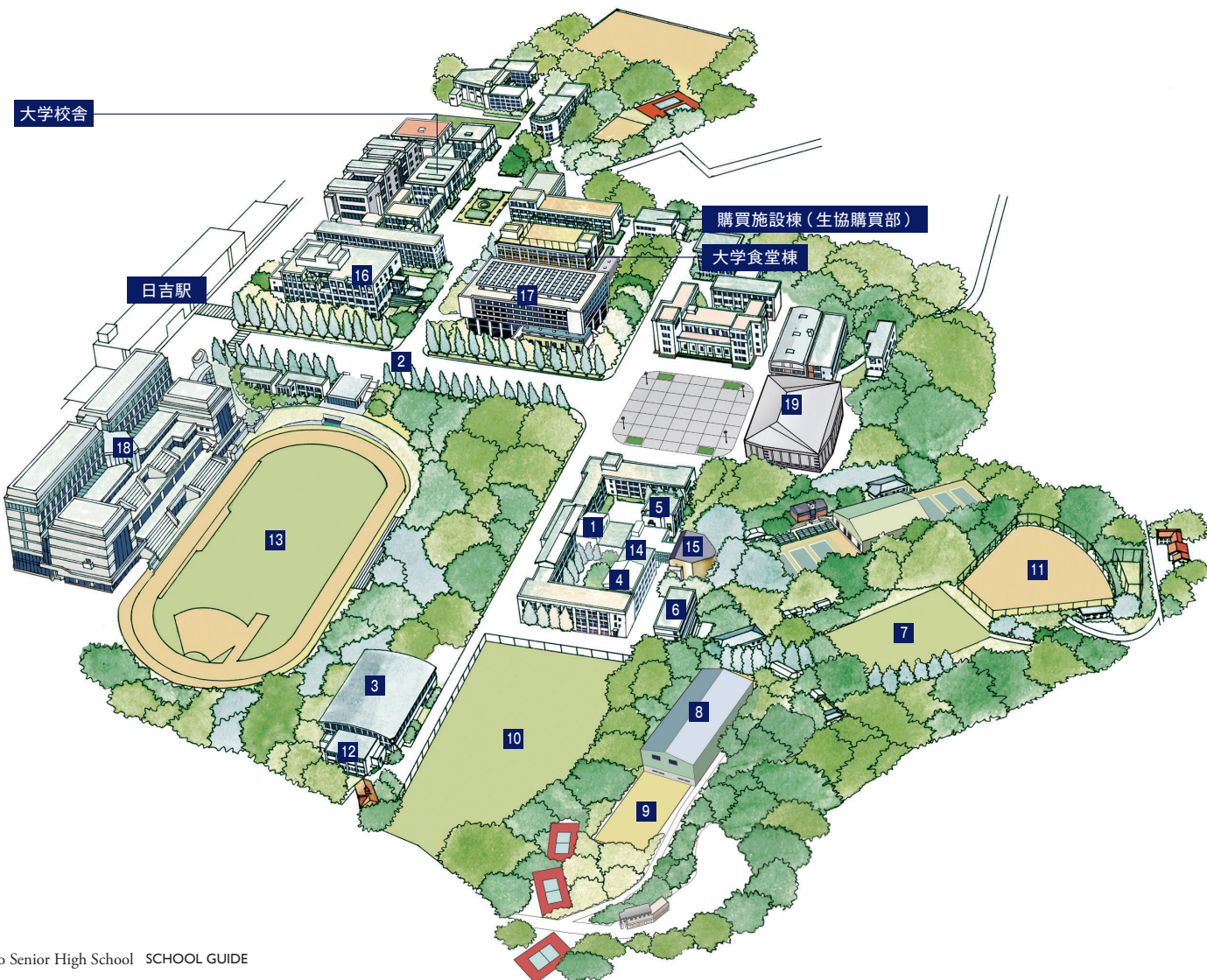
18 協生館

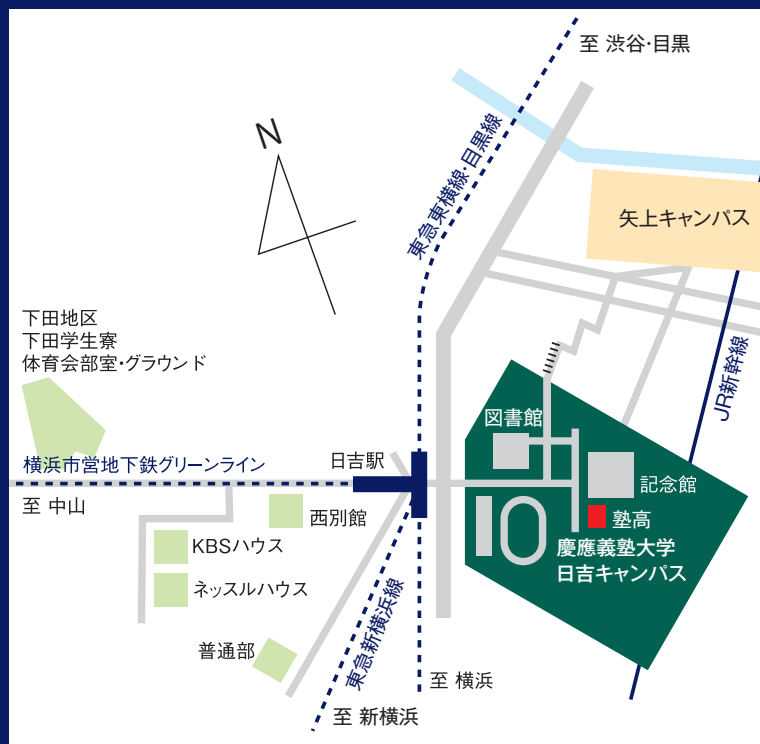
コンサートホール、プール、大学院施設、研修宿泊施設のほか、スポーツクラブ、カフェ、薬局、コンビニ、保育園などが入る、地域に開かれた複合施設です。高校生も日吉祭で音楽系クラブがホールを利用したり、水泳部がプールを利用したりしています。



19 日吉記念館

10,000人収容の大ホール。大学の入学式・卒業式、連合三田会大会などの会場になります。





Access

東急東横線・東急目黒線・東急新横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン
「日吉」駅下車（徒歩5分）

※東急東横線の特急とFライナー特急は日吉駅に停車しません。

※渋谷駅～日吉駅：25分（急行約20分）

※横浜駅～日吉駅：20分（急行約15分）

※新横浜駅～日吉駅：6分

慶應義塾高等学校

〒223-8524 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-2

TEL. 045-566-1381 (代表)



<https://www.hs.keio.ac.jp/>